実施するもので、両院は「スムーズな移行ができるよう、周知の徹底などの患者対応を十分に行っていく」としている。

統合する診療科は、両院に共通する小児科、消化器科、消化器外科、乳腺外科、血管外科の5科で、4月以降は松本病院に消化器科と消化器外科、乳腺外科、血管外科を、中信松本病院に小児科をそれぞれ統合。これに合わせて医師なども異動する。

このほか、組織再編に関連する検討課題としては、診療情報の管理やカルテの取り扱い方法、診療科以外の部署の統合などが挙がっており、両院は「患者さんや地域に迷惑がかからないよう、効率化を図る方向で協議を

上田市産院（髙橋健院長）の甲藤一男前院長が昨年末で退職し、補充医を探していた上田市は8日、満下淳地氏（40）を非常勤医として採用したと発表した。満下氏は水・木曜日の週2回、診療を担当する。

満下氏は信大医学部卒業後、同院を含む県内の医療機関の勤務を経て、3年間、米・コロラド大に留学していた。非常勤という雇用形態は本人の希望という。市は退職した甲藤前院長から紹介を受け、昨年末来、交渉を

活性調節タンパク質「RAMP2」
血管再生などに不可欠
信大大学院 新藤教授ら　虚血性疾患治療に応用も

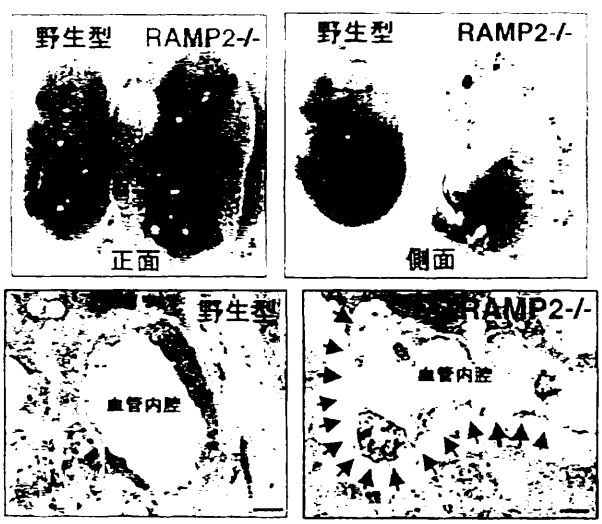
信大大学院医学研究科臓器発生制御医学講座の新藤隆行教授らはこのほど、米医学誌ジャーナル・オブ・クリニカル・インベスティゲーション（電子版）に、血管作動性物質「アドレノメデュリン（AM）」受容体の活性調節タンパク質である「RAMP2」が血管再生や血管構造を安定化する上で欠かせない役割を持っていると発表した。

新藤教授は、「今後研究が進めば、血管再生治療や脳浮腫、虚血性心疾患など難治性の高い疾患の治療法開発に大きな期待が持てる」と話している。

これまで、AMは強力な血管拡張作用を有する降圧物質として血管再生や血管・臓器の保護作用の効果を持っていることで広く知られていたが、ペプチドであることから血中半減期が短く、慢性疾患の治療薬の開発には応用が難しかった。このため、新藤教授らは血管内皮細胞で特に発現が強く見られるAM受容体システムの活性調節タンパク質「RAMP2」の働きに着目。「RAMP2」ノックアウトマウスを作製し、その働きについて研究を進めた。

新藤教授によると、「RAMP2」を完全に欠損しているホモノックアウトマウスはAMの信号が血管細胞に伝わらず、胎生期中に全身性浮腫や出血が生じて致死となることが判明。一方、「RAMP2」の発現が半分に低下しているヘテロノックアウトマウスは正常な発育を見せ、成体が得られたが、血管再生が減弱しており、下肢浮腫、皮下浮腫、脳浮腫を誘発させたとき、浮腫の増悪が認められたという。こうした研究結果から、AM受容体システムにおける「RAMP2」が血管新生や血管構造の安定化に必須な物質であることを突き止めた。

今後の展開として、新藤教授は「RAMP2」の働きを高めることで、再生血管の退縮や浮腫などを克服する構造的・機能的に安定した血管を作ることが可能になり、虚血性疾患の長期予後を改善する新たな血管再生療法への応用が期待できるとし、さらに血管透過性抑制作用や抗浮腫作用を応用することで難治性浮腫の新規治療法の開発にもつなげられると期待を寄せている。また、研究が進めば、メタボリックシンドロームの関連疾患である高脂血症や糖尿病、脳梗塞、心筋梗塞などの疾患にも創薬の応用範囲が広がるだろうと見通している。



通常のマウス胎児（左上・野生型）と「RAMP2」が欠損しているホモノックアウトマウスの胎児（右上）。野生型マウスの正常な血管（左下）と「RAMP2」にの欠損より構造が異常化している血管（右下）＝新藤教授提供

今月下旬から産科病棟を改修
伊那中央病院

伊那中央病院（小川秋實院長）は、今月下旬から産科病棟の改修を始める。昭和伊南総合病院の産科休止に伴い、4月から分娩取り扱い数が増加することを受けての措置。分娩室を増設するほか、陣痛室を新たに設ける。

改修工事では、分娩室を現在の2室から3室に増やすほか、新たに陣痛前段階の妊婦が入る陣痛室を設ける。これまでは、陣痛前の妊婦にも一般病室を開放していたが、分娩取り扱い件数の増加に伴い、産前産後の入院患者の増加が見込まれるため、陣痛前の妊婦には陣痛室、産褥期の患者には一般病室をそれぞれ利用させることで、効率の良い病室利用を図る考えだ。同院によると、現在月平均90件、年間1000件ペースの分娩を取り扱っているが、改修後は月平均1100件強、年間で1200件までの受け入れが可能になるという。

改修費は、分娩台などの関連機器に2210万円、施設改修費に3000万円を見込んでいる。新年度から供用を開始する見通しだ。

また、産婦人科の外来患者の増加にも対応するため、産婦人科外来診療棟を病院南側に増築する。新年度早々に着工できるよう、今年度内に実施設計を済ませる予定だ。

新しい産婦人科外来診療棟は鉄筋コンクリートの平屋建てで、延べ床面積は現在の120平方㍍から280平方㍍に増える。診察室、内診室は産科、婦人科ともに2つずつ設置する。工費は、伊那中央行政組合の起債事業として8800万円を計上する予定で、承認され次第着工する。

医療タイムス社・中部電力 共催　2008年2月22日㊎開催
「病院の隠れた浪費にメス！」

医事関連業務の受託から物品関連
医療関連サ
すべてワンセット